

# 意識しなくてもDNAが受け継ぐ和の感性

## 「書道家」 武田双雲

墨と紙から生まれる書の白黒の世界に光を求め、書を通じてコミュニケーションを試みる若手書道家がいる。各界から注目を集めている武田双雲さんだ。自身のスタイルを「強烈なあいまい」と語る武田さんは、静と動、冷静さと熱さ、穏やかさと激しさを併せ持った表現者だった。



### PROFILE

武田 双雲 | たけだ そううん

1975年、熊本県生まれ。東京理科大学理工学部卒。3歳より書道家である母・武田双葉に師事し、書の道を歩む。大学卒業後、約3年間のNTT勤務を経て書道家として独立。以降、狂言師や彫刻家、音楽家などさまざまなアーティストとのコラボレーションや斬新な個展など独自の創作活動を展開。多くの門下生を抱える書道教室を主宰。2003年、中国上海美術館より龍華翠褒賞を授与。イタリア・フィレンツェにてコスタンツァ・メディチ家芸術褒賞受賞。近年は映画「春の雪」「北の零年」など数多くの題字も手がけている。  
<http://www.souun.net/>

## 書でコミュニケーションを取る

武田双雲さんが書の道を選んだ理由のひとつに、書道家である母・武田双葉さんの影響が少なからずあったようだ。

「母イコール書でしたから、影響がないといえば嘘になります。息子としては母の影響を受けているとは思いたくないんですが、僕の本能や細胞が書に向いていったのでしょう」

物腰は柔らかく、芸術家然としたところがまったくない武田さん。

「自分の生き方につながるものですが、他人に『すごい』と言われるより『好き』と言われるほうが嬉しいんです。

ストリートにゴザを敷いて書いていた頃は、自信はないけど粋がっていたし、すごさを見せようとしていました。でも、誰も感動してくれない。『字、うまいね』で終わったりして。そして失敗を繰り返すうちに相手の立場に立ち、書でコミュニケーションを取るということを知りました。結局、書は夫婦や友達とのコミュニケーションと同じだ、と。僕は日本の書を広めようとか、書の魅力を伝えたいとか、まったく思っていないし、書で自分の存在意義を誇示したいわけでもない。書で会話をしたいだけなんです」

物腰はソフトだが、疑問を提示する精神は骨太である。

「芸術家らしさといえば、どうしてある人

たちは芸術家という枠にはまりたがるのしょうか？

僕には多くの芸術家は自身を苦しめているように見えます。どうして狭い世界で戦い、自分を追い込むのか？ どうして本能のまま生きられないのか？ 反対に自由を謳歌しようと訴えている人も不自由だと思います。こういったことを言葉で表すのは難しいから、言葉に発した瞬間にいろんなものが切り捨てられるから、僕は書を書いているのです」

## 戦略や戦術は不要。あるがままに

異分野のアーティストとのコラボレーションやテレビ、雑誌などの活動から、武田さんには革新的な若手書道家というイメージがつきまとうが、本人は気にとめていない。

「ホームページには、著名な方たちとのコラボレーションを載せていますが、それが僕の活動の中でわかりやすいもので、またみんなが知っている人たちだから掲載しているだけです。知名度のあるなしは、僕にとって優劣の差ではありません。一生懸命書いた作品が心を打つことと、コラボやテレビ出演などが心を打つことに違いはありません」

書道家としてテレビに出演することについても「バラエティーだから出演しないとか書道家だからこれをやってはいけない、といった決め事は僕にはありません」とこだわりはない。

アクティブに見えるが、意外にも自分から仕掛けることはないという。

「じつは引きこもっていることが多く、自分から仕掛けたことはないんです。人との出会いは、基本的にオファーベースです。テレビ番組や映画の題字であれ、ロゴであれ、依頼のあった仕事の中で、やるよと決めたら、その中で最高の作品をつくる。書道教室に集まってきた生徒さんも僕が営業したわけではなく、これも生徒さんからのオファーのようなもの。ご縁があった人と出会っているということです」

そしてこんな疑問を投げかける。

「僕は仕掛けること、つまり戦略や戦術って本当に必要なのか、と疑っているんです。むしろ戦略や戦術が方向性をねじまげることが多いんじゃないか、と。天然でいることがたまたま僕の生き方なのかと問えば、これは企業にも通じるこれからのあり方だと思います。この姿勢から和の心に近づいていったり、仏教の言葉に近づいていったりするのでしょうか。それはアジア的で日本的な考え方だと思います」

日本的といえば「書イコール和」という見方ができるが、武田さんはそれをも意識していない。

「太古から脈々とつながっているDNAが僕の感性になっているように、みんなが思っている以上に環境と先祖からのDNAに支配されているはず。日本人として生まれてきた時点で、意識しなくても和の感性を宿しています。反対に和を意識すればするほど、不自然で薄い和になっていくように思います。僕は和を意識したことはなく、たまたま最も着心地のよい作務衣を着たり、和風建築の家に住んでいたりするだけです」

## 白黒ははっきりさせるのはもったいない

武田さんは、自身のスタイルをこう語る。「僕は『強烈なあいまい』と呼んでいます。イエス・ノーを言いたくない、あいまいさはらんだ自分が常にいて、前向きなのにいろんなことを疑いながら進むのが僕のスタイル。どうして白黒ははっきりさせないのかというと、白黒ははっきりさせることほどもったいないことはないと思っているから。常に疑問と好奇心を持っていたいんです」

あいまいさを好む傾向は、武田さんの興味の幅広さと無関係ではないようだ。

言葉に発した瞬間に  
いろんなものが  
切り捨てられるから、  
僕は書を書いているのです



波



愛



命

「書道家としての抱負は『世界中の人を感動させたい』というのですが、世界中ということは、地球を遠くから見ないと語れません。僕は小さな頃から宇宙工学や量子理論に興味があり、星や雲や自分の身体に興味を抱き続けてきたから、書道家とか芸術といった狭い世界で生きようとは思わないんです」

武田さんは、会話が成り立つことを奇跡だと感じている。

「書は芸術だと言われていますが、でも、しゃべることもみんなが日常に行っている芸術だと思います。僕が何かしら考えたことを言葉にし、相手がそれを処理し、相手なりに解釈し、また言葉にして返してくれる。何気なく言葉でキャッチボールをしていますが、こうしたコミュニケーションができること自体、奇跡だと思います」

そして言霊と心のあり方にふれる。

「ふりまわされるような強い言葉があります。そんな言霊のエネルギーに感動もするし、利用することもあるし、否定することもある。でも、言霊がすべてだとは思っていません。

心のあり方は行動に表われると思うので、常に自分の心がどうあるべきかが大事。日本人は真面目なので、心のあり方として清楚、真面目でなければいけないと思いがちですが、誰もが誰かに認められたいと願っている。負の感情や欲望を否定してしまうのではなく、それらを内包していることを認め、それを踏まえて各自がどう行動するかということが大切でしょう」

### 人はなぜ書に感動するのか

感動を呼びおこす書の力とは何だろう。たとえば日本語のわからない外国人でも書に心が動くことは、何を物語っているのだろうか。「感動は僕のテーマでもある。生徒さんの中には、僕のことを知らずに作品を見て涙を流したという人や、書を見て教室に入って

コミュニケーションができること自体、そこに感動が生まれたなら、受信側と送信側とで成り立つ奇跡です



来た人がいます。二次元の世界にある白黒の文字に何かを感じる。そこに感動が生まれたなら、受信側と送信側とで成り立つ奇跡です」

書道の入門書には、心の状態が書になるから心を穏やかにして丁寧に書くことが大切と記されている。しかし武田さんの見方は少し異なる。

「しゃべることと同じで、あざといときもあるし、あざとくても相手が感動してくれるときもある。一点の曇りもない空より少しくらい雲があったほうが美しいように、何事も清濁併せ持っている。書も同じ。汚さと美しさ、大人っぽさとあどけなさなど相反するものを含めて、書は書き手の魅力と切り離せない。だから僕は人がなぜ書に感動するのかを知りたくなるんです」

そんな武田さんの書のインスピレーションは

どこからくるのだろうか。

「書の形はあらかじめ具体的に見えている場合と、まったくない場合、書きながらどんどん変化していく場合があり、毎回違います。頭の中で書の形が決まっても、予想しないにじみやかすれが生まれるなど、思ったとおりにいかないから書はおもしろいんです」

最後に若者に伝えたい言葉を聞くと、「自己中心的でいい」という回答が返ってきた。その理由はこうだ。

「中途半端にジコチューだから他人に迷惑をかける。ジコチューをつきつめると、たぶん世界平和につながる。自分がすべてだとわかれば、自分を大切にできるし、他人も大切にできると思います」

武田さんは強烈なあいまいに支えられ、漂うように、遊ぶように、楽しみながら独自の世界を築いている。

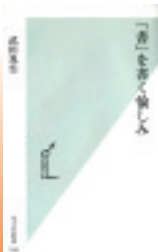
Text by: 綾瀬良太

### BOOK



たのしか  
ダイヤモンド社  
1,680円

独自の創作活動で注目される若手書道家・武田双雲、初めてのメッセージ集。中国語訳、英語訳併記。



「書」を書く楽しみ  
光文社新書  
735円

書の魅力や書体、日本の書の歴史、道具と創作、書の力など平明な文章で綴られた書の入門書。



書道  
双雲流自由書入門  
池田書店  
1,470円

初の書道ワークブック。こころを解き放つ書道、書の基本を学ぶ、武田双雲と書の世界ほかを収録。